

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年7月25日(2013.7.25)

【公開番号】特開2010-285618(P2010-285618A)

【公開日】平成22年12月24日(2010.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2010-051

【出願番号】特願2010-132714(P2010-132714)

【国際特許分類】

C 10 G	35/12	(2006.01)
C 07 C	5/367	(2006.01)
C 07 C	15/06	(2006.01)
C 10 G	35/085	(2006.01)
C 01 B	3/38	(2006.01)
C 07 B	61/00	(2006.01)

【F I】

C 10 G	35/12	
C 07 C	5/367	
C 07 C	15/06	
C 10 G	35/085	
C 01 B	3/38	
C 07 B	61/00	300

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月7日(2013.6.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

本発明に関係する他の技術的利点が、一般的に観察される：

- ・反応器R1及びR2の水素ブランケット(hydrogen blanketing)を減少させる(反応器R3およびR4内の水素の量を増加させることによって可能にさせる)ことによって、水素とナフテンとの間の競合反応を減少させ、そのことが反応器R1及びR2の触媒性能を改善する結果となる；
- ・反応器R3及びR4上の水素ブランケットの大幅な増加により、最終反応器(場合によりR3又はR4)からの出口でのコークス量が大幅に減少することとなる；
- ・反応器R1及びR2でのH₂/HC比の減少により、再循環圧縮機(RCY)の効用に対する必要性が低下する結果となる。還元流出物は、一般的に99.9容積%の水素を含有する。それ故に、反応器R3及び/又はR4の上流に注入することにより、反応器R3及び/又はR4に対応するH₂/HC比は、約0.1増加する。コークスの大部分が生成する反応器内のH₂/HC比がこのように大幅に増加することは、再生させられることとなるコークスが減少すること、又はイソコークスの時点で(at iso-coke)、上流に位置する反応器(すなわち反応器R1及びR2)への再循環ガスの流量が低減させられることのいずれかを意味する。それ故に、再循環圧縮機に関して大きな実用性利益が得られる。更に、反応器R1及びR2に関してH₂/HC比を減少させることで、前記反応器内でナフテン脱水素化反応を増加させ、かつ長鎖パラフィンのクラッキングを減少させることができる。